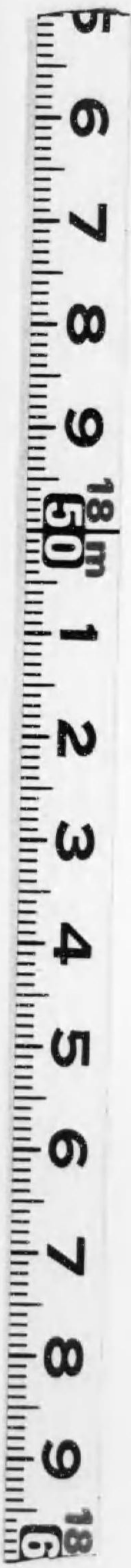
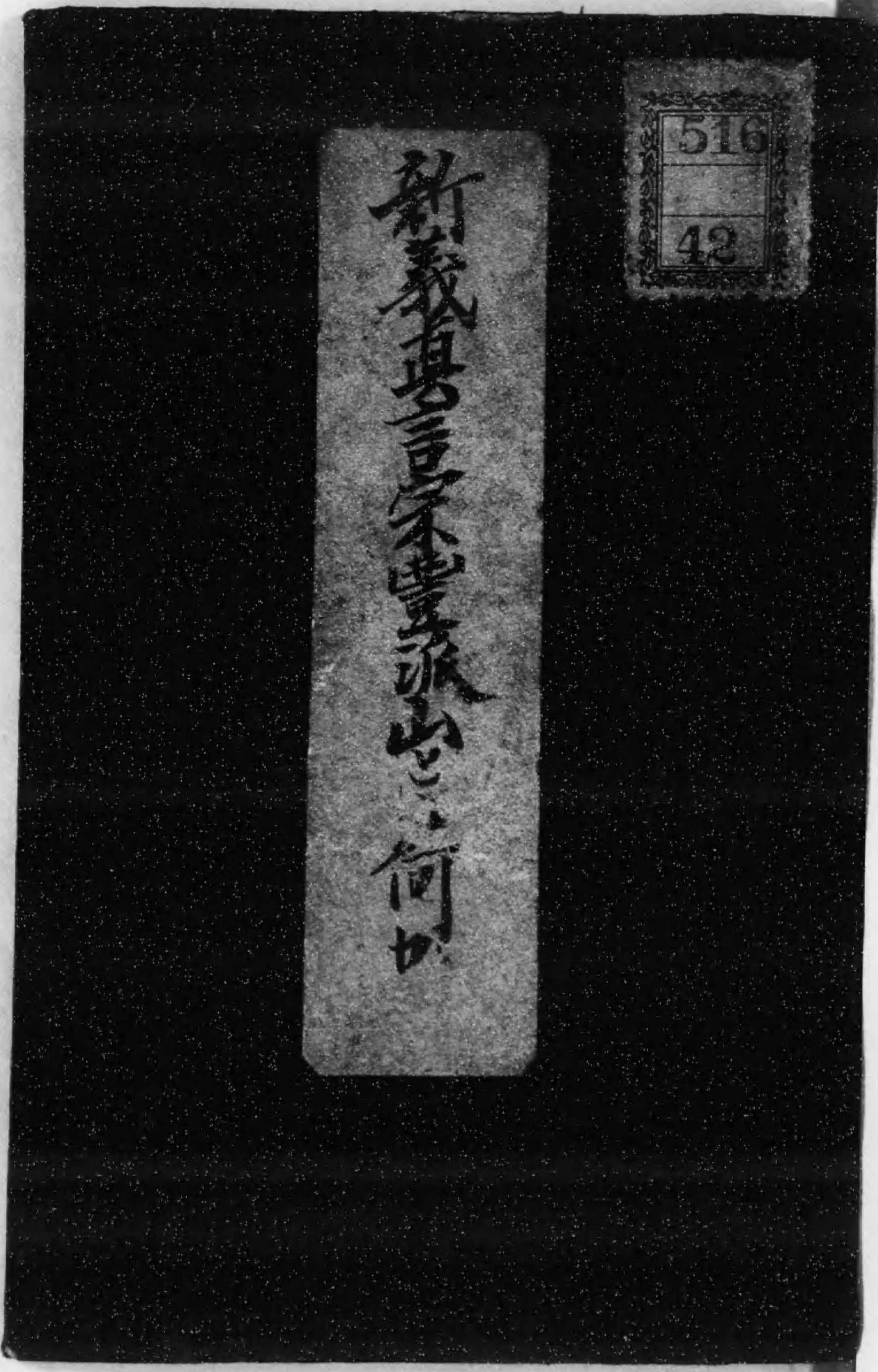


始



516
42

新義真言宗聖教心簡





訓 聖

夫れ佛法遙かにあらず、心中にして即ち近し。眞如外にあらず、身を棄て、何にか求めん。

(弘法大師)

衆生色心の實相は毘盧遮那平等智身なり。

(興教大師)

新義眞言宗豊山派とは何か

5/6-42

「新義真言宗豊山派とは何か」

加藤精神僧正 閱
久保埜太運 述

回日本佛教の宗派

今から二千年を隔つる大むかし、印度ガンジス河畔に於て、
釋迦佛によつて開説された佛教の源流は、支那朝鮮を経て、
皇の十三年初めて日本に傳はり、推古の朝聖德太子出で、大に
佛教を信奉弘通し給ひ、茲に日本佛教興隆の源泉を作つた。日本
佛教の宗派は、支那から直接傳へたものもあり、又日本開宗のもの

大正 12. 2 寄贈

日 聖 派 山 豊

二月十五日	常樂會 (釋尊涅槃會)
三月廿一日	御影供 (弘法大師忌日)
四月八日	佛生會 (釋尊降誕會)
五月五日	專譽上人恩德會 (忌日)
六月十五日	弘法大師誕生會
六月十七日	興教大師誕生會
十二月十二日	陀羅尼會 (興教大師忌日)

二
のも起つて、現今存在して居る主なものは、天台宗・真言宗・禪宗・淨土宗・真宗・日蓮宗等であつて、これを細別すると五十餘宗派となるのである。その中真言宗は古義と新義とに二大別され古義は更に高野派・御室派・大覺寺派・醍醐派・東寺派・泉涌寺派・山階派・小野派の八派となり、新義は更に智山派・豊山派の二派となる。

日本佛教の各宗派その寺院數約七萬餘ヶ寺、僧侶數約十二萬七千六百餘人、檀徒數約三千餘萬人、信徒數約二千餘萬人、而して真言宗はその七分の一の勢力を有ち、新義派は又その過半を占め

智山と豊山との兩派は伯仲の間にある。

回新義真言宗の起源

真言宗の高祖弘法大師は桓武天皇の延暦二十三年に入唐せられ青龍寺の惠果和尚に遇ふて、真言秘密の奥義を傳へ、大同元年に飯朝せられて、弘仁七年高野山を開き、次で弘仁十四年五月(大正十一年より千百年前)勅あつて京都東寺を賜ひ、鎮護國家の祈禱道場となし、永く真言宗の根本道場とせられた。こゝに一宗の基礎が定まつたのである。

その後、教勢日に隆盛となり、平安朝の末期に興教大師が
出て、専ら實修實行の道を説かれた。興教大師は諱を覺饒、正
覺房と號し、堀河天皇の嘉保二年肥前の鹿島に生れ、八歳にして
佛の無上尊なることを開き、感奮して出家の志を起し、十六歳
仁和寺寛助大僧正を仰いで得度し、南都の佛教を修めて、二十歳
高野山に上り、青蓮、明寂の諸徳について修學、三十二歳紀州石
手の莊に根來山の基を開き、次で鳥羽上皇の歡信を得て、長承元
年（大正十一年より七百九十一年前）高野山に大傳法院を建立し、新主義を
懷いて大に宗風の宣揚に努められた。これが新義眞言宗の起源で

ある。

長承三年冬四十歳にして、大傳法院兼金剛峰寺座主職に補せら
るゝや、金剛峰寺の衆徒と相容れず。遂に去つて根來山に退き、
康治二年四十九歳にして入寂せられた。

興教大師の滅後百四十六年、正應元年賴瑜僧正大傳法院を根來
山に移し、大に新義の教風を宣揚せらるゝに至つて、こゝに古義
と新義とが明かに別立した。新義眞言の宗義は源興教大師に出で
教理の攷究は般若寺の鈔に淵源して、賴瑜僧正に大成し、聖憲尊
師に至つて完璧と爲つた。新義眞言の宗徒はその徳を尊んで「瑜

公憲師』と併稱する。

回 豊山派の由来

根來山は頼瑜僧正の後次第に發展した。永祿天正の頃智積院に玄宥僧正あり、妙音院に專譽僧正あり、專譽僧正頼玄能化の後を承けて一山の能化となるや、玄宥僧正又一部の徒に推されて能化となる。これ後年智山豊山對立の濫觴である。

天正十三年根來山は豊臣秀吉の兵燹に罹り、一山悉く灰燼に販するや、兩能化各々學徒を率ゐて難を避く。後天正十五年(大正

十一年より三百三十六年前)專譽僧正は大和の國守豊臣秀長の皈依を得て、豊山長谷寺に入り、玄宥僧正は徳川家康の世に至つて、智積院を京都大佛の境内に移し、各々相競ふて法幢を翻すに及び、根來の新義眞言は、終に智山豊山に分るゝに至つた。

豊山は徳川時代を通じて、佛教研究の中心として、各宗から留學するもの多く、本邦佛學者の淵叢を以つて目せられ、法住、快道、戒定の三師の如きは豊山に於ける天明の三傑と稱せられた。

徳川幕府は又古義の諸山を公家佛教と見做し、特に新義を保護し、五代將軍綱吉が亮賢僧正の爲めに、護國寺を建て、隆光僧正

の爲めに護持院を造つたなどは、著名な事實である。今日新義の勢力多く關東の地に盛なるものある所以は、全く幕府の保護に基づくのである。

かくて明治十二年に至つて、眞言宗合同の計畫が企てられ、新古とも東寺を眞言宗總本山とし、長谷・智積・金剛峰・仁和・大覺・醍醐・勸修・隨心・泉涌の九ヶ寺は大本山と稱して、統理せられたが、明治三十三年八月各本山獨立し、各々一派を公稱して今日に至つた。

回豐山派の宗旨

新義眞言宗豐山派宗憲の第一章に次の如く規定してある。

宗 旨

- 第一條 本派ハ加持門說法ノ教義ニ依リ三密ノ妙行ヲ修シ即身成佛ノ勝果ヲ期ス
- 第二條 本派ハ兩部ノ大經及密部ノ經軌論藏十卷章密嚴諸祕釋道教錄ヲ以テ所依トス
- 第三條 本派ハ大日如來ヲ萬德總標ノ本尊トシ諸佛菩薩明王ヲ別德ノ一尊トシ崇奉ス
- 第四條 本派ハ弘法大師ヲ高祖トシ興教大師ヲ宗祖トシ專譽上人ヲ派祖トス
- 第一條に「加持門說法の教義」とあるのが、新義と古義とその宗

旨の上から分るゝ點で、新義では釋尊が六年苦行の後、菩提樹下に座して諸佛の驚覺を蒙り、豁然として大悟せられ遂に毘盧遮那佛と成られた、その時の心中の理想境を自證と云つて、この位は全く言議の及ぶ所でないから説法はないが、往昔の大悲願力に催されて、自在神力加持三昧に住し自證の位を改めずして、遠く未來機の爲めに兩部の大經を説き、種々に人種救濟の手段を講究せられた位これを加持門説法と云ふのである。次にその手段を直に所化の機類に對つて實行せられたのを加持世界の説法と云ふ。加持世界とはこの現在の娑婆世界である。ところが古義では別に

この加持門説法と云ふのを立てず、自證の位にも説法がある、鳥語水聲皆法然道であると立てる。この相違點は一見些細なやうではあるが、新義の實際的宗風はこゝに出發する。興教大師の特長は何事にも實際的實行的で、教義の背景に深い強い鍛練された宗教的經驗を必要とし、唯だ學問的に理性にのみ満足せず、情意の要求を重んじ、熱心敬虔な宗教感情を重んじ、健全高潔な倫理生活を重んじ、この一日を佛として眞實に生きる爲めに、個人の修養及び個人の自覺を重んせられた所にある。この性格この生涯がやがて新義眞言宗の宗風となるのである。

次に『三密の妙行』と云ふのは、真言宗徒の成佛の實踐的根要件で、『能令下三業同於本尊』とて、合掌して佛を禮し、佛の御名を唱へ、佛を念じて、自身の身と口と意との作業を佛と同し、自身と佛と同一體と達悟し、佛の功德活動を自身の上へ起して、男女の隔てなく、父母の生める所のこの身この儘佛となる。これが『即身成佛の勝果』であつて、即身成佛は真言宗徒の最高理想である。真言宗の特色たる修法とか祈禱とか或は加持とか云ふことも、つまり自身と佛と三密感應同交して自身が絶対の佛となり、絶対の業用を現はすことである。真言宗徒にあつてはこの

國土をすて、他に淨土はないのであつて、國家を擁護し、社會に貢獻する所以のものは、そのまゝ大日如來のお淨土たる密嚴佛國を莊嚴する努力に外ならぬのである。

第二條は所依の聖典を擧げたので、高祖の三學錄によると、

- 一經、大日經金剛頂經等 百五十部二百卷(實は百三十二部)
- 一悉曇部、梵字胎藏儀軌等 三十九部四十卷
- 一律、蘇悉地經等 十五部百七十三卷
- 一論、菩提心論釋摩訶衍論 二部十一卷

と云ふやうに、『密部の經軌論藏』は數百卷の多さに達するので

あるが、之を本に販すると大日經と金剛頂經に出でないので、これを『兩部の大經』と云ふ。『十卷章』とは弘法大師の即身成佛義、聲字義、吽字義、心經秘鍵各一卷、二教論二卷、秘藏寶鑰三卷以上上の九卷に龍猛菩薩の菩提心論一卷を加へたもの、『密言諸秘釋遺教錄』は共に興教大師の著作を纏めたものである。

第三條は所崇の本尊で、眞言宗には一定した本尊のないのが特色である。宗徒が三密の妙行によつて自身の上にあらはさんとする目的は大日如來で、阿彌陀佛、觀世音菩薩、不動明王等の無量の諸佛菩薩明王は皆この大日如來の一徳の現はれである。その人

人の機根に應じて、有縁の尊を信仰すれば、つまりは大日如來の悟を開く。眞言宗で最も大切な入壇灌頂の儀式は灌頂道場に入つて投花得佛して、諸尊と法縁を結ぶのである。而して此等の諸尊は凡て自身が本來有つてゐる尊い功德であつて自身の外に本尊はないと知る。これを凡聖不二の安心と云ふ。

雲はれて後の光と思ふなよもとより空にありあけの月
佛性の月はお互の心中に常に光りかゞやいてゐるのである。

第四條は祖師を擧げたので、その寶號は高祖、宗祖、派祖の次に南無大師遍照金剛、南無興教大師、南無專譽僧正と唱なへる

ことになつてゐる。

◎ 豊山派の現勢

回 統 理

一 管 長

管長はその候補者たる十名の集議これを互選し、主務大臣の認可を得て就職し、一派の化導を純一にし、宗義の正非を検案し、宗憲の條規によつて、一派を統理さるゝ。

回 宗 政

豊山派の宗門政治の根本義は、個々の寺院としては自由自治、一派としては協同一致、而して各寺院の住職及び檀徒信徒の公同心によつて、歩調を揃へ、勢力を合せて、教師の養成や、活潑な傳道も出来るのである。

今や世界の各方面は着々として新しい試みが現はれ、殊に宗教界には目醒しい革新の氣運を見るに當つて、本派の各寺院は益々内容を充實し、自給獨立の面目を全うすると共に、協同一致の精神を發揮し一派全體の運動の爲めに力を注がねばならぬ。

〔立法〕

二 宗 會

宗會は帝國議會のやうなものであるが一院制度で、豊山派の最高權威である。その議員は各寺院住職から選出した、二十名の代表者を以て組織する。定期の宗會は毎年二月開會し次年度の豫算、一派の事業報告、その折に提出された議案等を議決する。

三 宗務支所會

宗務支所に宗務支所會議を設け、參事を議員として毎年一回之を開く。

〔行政〕

四 宗 務 所

宗務所は東京市小石川區大塚坂下町護國寺中に設置し、本派最

高の行政廳で、管長常在して、宗務を綜攬し、一派を統管する所であると共に、又豊山派としての教團活動の中心本部である。

宗務所に庶務、教學、財務の三部を置き、現在宗務長一名、部長三名、特派傳道師二名、職員、書記各若干名事務を取る。事務の性質によつて、庶務部は寺院住職の任免、教師、僧侶の分限進退、檀徒信徒の取扱等、教學部は宗學校傳道慈善事業、徒弟教育等、財務部は宗費、寺有財産保管等のことを分擔してゐる。

五 宗 務 支 所

宗務支所は宗務所に屬し、宗務支所長常在して管内の事務を掌理する所である。現在五十二の支所が置かれてゐる。其他北海道及朝鮮は開教地として、別に開教事務

所を置く。

六 宗 報

宗報は毎月一回宗務所で發行して、一般購讀希望者に頒布して居る。一派の公布機關である。

回 教 育

七 宗立學校

(一) 豊山大學 東京に在つて本派の教師たるに須要な高等教育を施し及び佛教教義の蘊奥を研究する所である。

(二) 豊山中學校 本校は中學校令に據り、男子に高等普通教育を爲す所で東京に在る。

(三) 普通講習所 本派の僧侶をして宗學の初步並に法式を學習せしむる爲めに毎年大和の總本山長谷寺に開く。

八 教育策進機關

- (一) 傳道講習所 派内の僧侶をして傳道の方法を研習せしむる爲めに東京に開く。
- (二) 巡回講習 各地方に於て事相講傳、教相講習、法式聲明練習、悉曇相承等を行ひ、僧侶をしてその蘊奥を更らに深からしめ、信念の倍增を圖る。

九 教育補助機關

教育財團 本派教育事業の資力を充實し、土地家屋其他の財産を所有し、必要の經費を支辨し、物件を供給する爲めに、大正元年「新義真言宗豊山派教育財團」を設け、今や「財團輔成會」を設立

して、各寺院住職及び檀徒信徒の協力を俟ち、闔宗の力をこれに注いで、百萬圓の基金を積立て、以て宗門教育發展の基礎を造らんと努めてゐる。蓋し急轉し行く時代の指導者を要求して、人物缺乏の聲が到る處に叫ばれる今日、教師獎學、傳道師養成の途を講ずるのは、一大急務に屬することである。

回傳道

〔傳道道場〕

一〇 本山

(一) 總本山豐山長谷寺 奈良縣磯城郡初瀬町にある。聖武天皇の

敎信により、徳道上人の創設し給ふ所、後八百年にして、天正十五年專譽僧正がこの山に入つて法燈を擎げられてから、總本山の印綬を傳ふ。

(二) 別格本山根來山大傳法院 宗祖唱寂の靈地、和歌山縣那賀郡根來村に在る。

(三) 別格本山密嚴山誕生院 宗祖聖誕の靈蹟、佐賀縣藤津郡鹿島町に在る。

一一 一般寺院

寺院は本派の敎義を宣布し、法儀を執行する所であつて、その總數前掲の三ヶ寺を除いて、三千十二ヶ寺(大正十一年十月三十日現在)ある。

〔傳道機關〕

傳道は一派の上首を始め、教師皆其の事に隨ふ。

一二 特派、巡回及特殊傳道

傳道專務として、特派傳道師二名及び巡回傳道師三十餘名があつて、宗旨の宣揚世道人心の開發に助めてゐる。特派傳道師は宗務所に常在して、傳道事務に參與し、巡回傳道師と共に各地に出張して傳道を行ふと共に又鐵道、郵便局、行刑所、警察、工場、店員、軍人會、青年會、婦人會、コドモ會等の特殊傳道に従事してゐる。

一三 支所傳道

地方宗務支所にも、それ／＼一名以上の常任傳道師があつて、常に其の支所下の傳道に當つてゐる。

一四 開教

北海道及朝鮮は開教師を派遣して、宗派の前進運動に力を注いでゐる。現在北海道に十三布教所、七ヶ寺、朝鮮に四布教所の設けがある。

一五 教師

教師は本派の法脈を相承し、教義を宣布し、法儀を執行するの任務で、現在約二千人ある。この外にまだ教師の資格に達しない僧侶が約七百人ある。

回 檀信

一六 檀徒信徒

檀徒とは本派の教旨を信する男女で、本派寺院の檀越となり、該寺院の名簿に編入したもので、信徒とは、他宗派の檀徒信徒又は本派の檀徒で他の本派の寺院に皈向し、該寺院の名簿に編入したものを云ふ。檀徒又は信徒はその所屬寺院及び一派に對して、外護の任を盡くし、寺院及び一派をしてその使命を全うせしめなくてはならぬ。大正八年十二月調査の本派檀信徒数は左の如くである。

檀徒數百七萬九千百十二人

信徒數三十萬三千二百四十三人

戸數	檀徒		信徒	
	男	女	男	女
一九二、二五三	五八、九〇九	五〇〇、二〇三	一五、五一五	一四七、七八八
	計	計		計
				五〇五、二四三

△本派檀徒府縣別分布表

道府縣	檀徒數	道府縣	檀徒數	道府縣	檀徒數
東京府	九六、八三〇	山形縣	二六、六四	奈良縣	五、八三〇
神奈川縣	七、九〇	宮城縣	二五〇	和歌山縣	二、五〇〇
埼玉縣	一三四、五〇三	秋田縣	二二五	大阪府	四二
千葉縣	一四七、五七三	岩手縣	一、四七六	京都府	八八七
茨城縣	一五九、五九	青森縣	五、八七八	高知縣	二八、六四五
群馬縣	八二、二六六	北海道	五、五〇五	愛媛縣	四三、三六七
栃木縣	七〇、〇六七	愛知縣	七、七三三		
長野縣	九、七〇八	滋賀縣	一、二四七		
新潟縣	六四、五八〇	岐阜縣	二		
福島縣	一〇三、〇九	三重縣	一五、七二二		

回 經濟

一七 一派經濟

一派の經費は宗會の決議を経て寺院及僧侶から徴收する。會計年度は毎年四月に起つて、翌年三月末日に終る。大正十一年度の一派歳計豫算の總額は拾壹萬九千四百圓である。

一八 支所經濟

宗務支所の經費は支所會議を經、管長の認可を得て、その管内から徴收するので、全支所の豫算總額は宗務所豫算の約十分の三以内である。

回 財產

一九 一派財產

一派の財產としては「豊山派教育財團」がある。大正十一年三月末日現在の財産目録によると左の如くである。

一金拾六萬參千七百貳圓八拾六錢

内 譯

金九千五百四圓	建	物
金七千四拾九圓拾貳錢	什	器
金拾壹萬八千參百九拾四圓拾壹錢	土	地
金貳萬八千七百五拾五圓六拾參錢	預	金
	株	券
	現	金

二〇 寺院財產

(一) 寺有財產 豊山派寺院所有の財産の中、土地と建物と資金との各總額を大正十一年六月の調によつて見ると左の通りである。

反別 地價	境内	田	畑	宅地
	反別 (官五・四〇六・七三三 民一・七六五・二三三) 地價 二六・八七一・三三五	三三・三三三・八二二 八九二・八六五・五四四	三五・七五七・七〇六 三〇二・七二一・一三四	一九二五・四一八 二六二・九二四・七八二
建 物	山林	雜地	計	
	三三・三九四・五三五 三三・九九七・四〇七	二〇二五・八〇七 一・五〇〇・八一五	九二・四五八・四三三 一五九九・九六〇・九〇七	
棟數	正金	寺有金		
坪數	證券			
一〇・四九四 一七・四五八・四四	七〇三・五八六・〇二四 三二七・九二五・四四六			

大正十一年六月調

(二) 寺院收入 豊山派寺院の年收總額は大正十一年六月調による
と、左の通りである (但し總本山長谷寺の收入は此の内に含まな
い)。

總額金百七萬七千拾貳圓九拾參錢

内譯

土地	建物	寺有金	檀徒	信徒	雜收
七六三・三三〇・三三	四・七九三・七	四五・六三八・九五	二八九・二一・九三	五六・六八九・二九	一七・四四九・三六

(をばり)

◎ 興教大師のみをしへ

菩提心を發すとはこれ佛道の本意なり。佛さならんと思ふ心なるが故に。但し菩提心にも教に隨つて淺深ありと雖も、詮する所は上求菩提下化衆生の二なりその上求菩提と申すは上佛道を求むる心なり。下化衆生といふは一切衆生を悉く度する心なり。又菩提の慈悲と申すは一切の人に於て有縁無縁をいはず、我が獨子の哀をなす心なり。昔この心を發したりし人今の佛といはれ玉ふなり。されば菩提の慈悲を發さざらん者は佛に成るべからず。

(孝養集抄錄)

大正十一年十一月十五日 印刷
大正十一年十二月十二日 第三版發行

定價金十錢

不許
復製

編輯人 鈴木 杲 雄
發行所 東京市日本橋區濱町二ノ十二
印刷人 間 中 喜 久 一
印刷所 東京市日本橋區濱町三ノ二(はノ廿四號)

發行所

東京市本所區林町一ノ一八
文書傳道普及會
振替東京四五八〇三
東京市小石川區大塚坂下町一七
新 興 社
振替東京四五八〇三

576
42

終

